

論文審査の要旨

報告番号	㊦・乙 第 3014 号	氏名	奥茂 敬恭
論文審査担当者	主査 泉崎 雅彦 教授	副査 内田 直樹 教授	副査 小風 暁 教授
(論文審査の要旨)			
<p>変形性膝関節症 (OA) は関節軟骨や関節構造の退行性変化や軟骨破壊の結果として発症する疾患である。OA に対してコンドロイチン硫酸 (CS) などのサプリメントの摂取が有効であるという報告は散見されるが、その作用機序は未だ解明されていない。OA の進行、増悪に活性酸素の一種である一酸化窒素 (NO) が関与しており、コンドロイチン硫酸が NO 産生に及ぼす効果を、膝 OA 患者から採取し株化した線維芽細胞様滑膜細胞を用いて検討した。</p> <p>滑膜細胞を、各種濃度に調整したコンドロイチン硫酸の存在下に IL-13 で刺激した。刺激 12 時間目と 24 時間目に signal transducer and activator of transcription factor 6 (STAT6) の活性化と induced nitric oxide synthase (iNOS) mRNA 発現を、培養 48 時間目に NO 産生量を測定した。</p> <p>STAT6 活性化、iNOS mRNA 発現量、IL-13 依存性 NO 産生は 7.5μg/ml 以上の濃度のコンドロイチン硫酸によって抑制された。</p> <p>本研究は、コンドロイチン硫酸が膝滑膜細胞の NO 産生を抑制し、OA 進行予防の一助となる可能性が示唆された。</p> <p>本研究は新しい知見を得ており、学術上価値のあるものと考えられる。</p>			
論文題名 :			
Suppressive Activity of Chondroitin Sulfate on Nitric Oxide (NO) Production by Synoviocytes from Knee Osteoarthritis In Vitro (変形性膝関節症患者由来関節滑膜細胞の一酸化窒素産生に及ぼすコンドロイチン硫酸の効果)			
掲載雑誌名 :			
International Journal of Pharmaceutical Sciences Research 4: 125. 2017 年			

(主査が記載, 500 字以内)